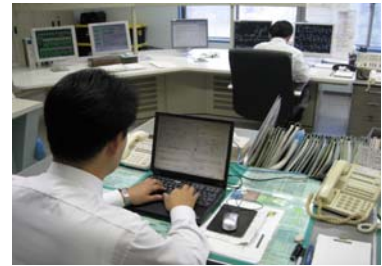
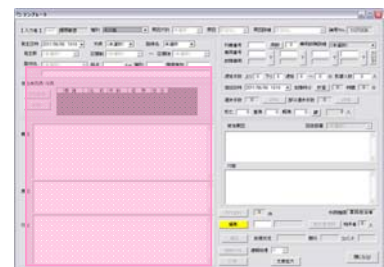


業 種	鉄道・軌道
取組分野	社内情報伝達及びコミュニケーションの確保
テ ー マ	経営陣と現場社員の安全に関するコミュニケーションの向上
取組の狙い	<p>運転事故・輸送障害に関する情報のデータベース化を行い社内の情報共有を図るとともに、それらの情報を活用した対策の実施や役員による現場確認を行い、更なる経営陣と現場社員のコミュニケーションの向上を図る。</p>
具体的内容	<p>1. 高松琴平電気鉄道株式会社では、無線で伝達された運転事故・輸送障害等の運行に関する事象を、指令所等で「セーフティーBOX」という情報システムに速やかに入力し、現場社員から経営トップまで各職場・各個人の端末で閲覧することが出来るように管理している。事象の件数は、2011年3月までに3,000件を超えている。</p> <p>2. 「セーフティーBOX」に入力された情報は、各担当部署が原因の調査を行い、対策・影響等の情報を追加する。その後、社長・安全統括管理者をはじめとする常勤役員から乗務員・駅係員・技術係員までの全職種が出席する「安全推進委員会」において原因・対策の討議がなされ、有責事象については、すべて再発防止対策が決定される。その後、簡易な事象については、事象発生当日に対策を実施するなど、スピードをもって実行している。</p> <p>3. また、「安全推進委員会」では、現場社員との意見交換の時間を必ず設け、事故情報以外にも日頃の取組の報告や現業部門で抱える課題等が経営陣に直接伝えられ、現場の意見を踏まえた設備の改善やルールの見直し等に努めており、2011年3月までに100回の開催（毎月開催）をしている。</p> <p>4. 再発防止対策及び意見交換で出された設備の改善やルールの見直し等は、社長・安全統括管理者をはじめとする常勤役員が年間3回現場査察を実施し、遂行状況の確認を行った。</p> <p>5. 「セーフティーBOX」の情報は事故情報の共有・再発防止対策の検討のみならず、重要な事象については管理者が教材資料として作成し、年間6回実施している安全教育にも活用されている。</p>
取組の効果	<p>事故の情報が速やかに伝わることで、同種の再発防止や未然防止に寄与しているとともに、現場社員の意見が直接、経営陣に伝わることにより、現場で発生している問題が迅速に改善されるようになり、経営陣と現場社員間にて良好なコミュニケーションがなされるようになった。</p> <p>なお、現場職員の意見が経営陣に直接伝わり、結果として反映されることにより、現場社員の安全に関するモチベーションの向上にも寄与しているものと考えられ、事故発生件数が減少傾向にある。</p>
事業者名	高松琴平電気鉄道株式会社 鉄道事業本部 運輸サービス部 (連絡先：087-863-7300)



セーフティーBOX 入力



セーフティーBOX 入力画面